

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 田原市博物館【愛知・田原】(<https://artscape.jp/exhibitions/12572/>)

6月1日(土)～7月21日(日)

テーマ展：山茶碗ってナンダー ー山茶碗の新たな価値と魅力をさぐるー
東海地方の平安時代から鎌倉時代に多く焼かれた山茶碗。日常の食器として生活の必需品でしたが、今ではいにしえの技と憧れの品となりました。田原市の所蔵品と愛好家の所蔵品からその山茶碗の魅力と秘密を考古学、美術、骨董のそれぞれの立場で迫ります。

2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波篠山】(<https://www.mcart.jp/exhibition/e3601/>)

6月8日(土)～8月25日(日)

企画展：受贈記念 高瀬正義コレクション

兵庫のやきものの探訪ー五国の窯場を巡るー

兵庫県加西市に生まれた高瀬正義氏(1940～)は、サツキ盆栽を楽しむために昭和34年(1959)から華道御室宮容真御流(おむろみやようしんごりゅう)を学び、また、茶道もたしなむ中で、やきものに関心をもつようになりました。同年、神戸市で入手した丹波焼の壺を契機として、以後、兵庫県のやきものに魅せられ、約65年にわたる歳月をかけて丹波、摂津、但馬、播磨、淡路からなる兵庫五国の窯場を網羅すべく積極的に作品を収集しました。氏のコレクションは、江戸時代後期に窯業を開始した三田焼(三田市)や珉平焼(南あわじ市)に加え、昭和時代まで生産した打出焼(芦屋市)や神戸絵付(神戸市)、篠山焼(丹波篠山市)など、近現代の作品を中心にしています。氏は、馴染みの古美術店や各地で開催される陶器市に足を運び、花器や茶器、食器など多種多様なやきものを幅広く収集し、コレクションを充実させてきました。当館では、令和2年(2020)から令和5年(2023)に氏のコレクション82件を受贈しました。これを記念して、氏が独自の審美眼で蒐集した作品を広く紹介するとともに県内各地で生み出された変化に富んだやきものに親しんでいただきます。



3. 独立行政法人国立美術館 国立陶芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/r6-01>)

6月18日(火)～8月18日(日)

所蔵作品展：おとなと子どもの自由研究 工芸の光と影展

光と影。それは自然・人工を問わず日々目にするもの。物理で語ることながら、心理への働きかけも少なからず、まったく意識にのぼらないこともあるのに、ひとたび注視すれば時間が経つのも忘れさせるほどです。原初的な畏怖から私たちを救い出し、富貴や理想の表象ともなって憧れを募らせる光。他方の影は底知れなさもまた魅力で、そこに情趣さえ読み取ろうとするのは、陰翳礼讃の気風があるわが国ならではの美意識かもしれません。本展は工芸が切り取って見せた光と影のそれぞれの方向、そしてその間で無段階に変化する美しさを訪ねる試みです。物質感を豊かに抽出し、複雑さと合理性とを兼ね備えた構造から成る工芸。そこは光と影にとって絶好の舞台装置ともいえます。また、身近ではあっても決して触れることのできなかった現象を掌中に包み込み、身にまとうことさえできるのも工芸ならではの喜びです。夏のひととき、光と影のコントラストとハーモニーをお楽しみください。

